

西南学院大学神学部 主催

法学部「ことばの力」養成講座、安全保障関連法の廃止を求める西南学院有志の会 共催  
公開シンポジウム

# 「国葬」を考える

と き：9月27日(火) 17:30~19:00

ところ：西南コミュニティーセンター・ホール

入場無料・事前予約不要、先着80名まで

(80名を超えた場合は、コロナ対策のため入場をお断りいたしますのでご承知おきください)

17:30~18:15 発題 田村 元彦 (西南学院大学法学部准教授)  
柿木 伸之 (西南学院大学国際文化学部教授)  
濱野 道雄 (西南学院大学神学部教授)  
須藤伊知郎 (西南学院大学神学部教授)

18:15~18:25 質疑応答

18:25~19:00 全体討議

YouTubeライブ配信URL：<https://youtu.be/-hyvCMCUSg0>



9月27日に安倍晋三元首相の「国葬」が予定されている。岸田文雄首相は「在任期間の長さ」「震災復興、経済再生などの功績」「選挙中の蛮行による死去」「国際的な評価」を理由に「国葬」を閣議決定し、海外から寄せられている弔意に礼節を持って応える必要があると主張している。しかしこれらはいずれも納得のいく説明にはなっておらず、世論の賛否は分かれ、どの調査を見ても反対の声の方が多い。そもそも明治憲法下の国葬令は失効しており、「国葬」の定義も定まらない中、内閣府設置法の「国の儀式」に当たるといふ詭弁を弄して、国会の審議を経ずに閣議決定したことは、立憲主義に反し、法手続き上重大な瑕疵がある。また費用も予備費から充当するというのは財政民主主義に反する。さらに、「国葬」を行うことは、国民に弔意を強制するものではないと説明しても、個人の内心に踏み込む事柄であり、基本的人権の根幹をなす信教の自由を侵すものである。「国葬」は死者を美化し、政治権力の正統性を宣伝する装置として機能してきた歴史がある。私たちはこの「国葬」が抱えている諸問題を政治学、法学、哲学、倫理学、宗教学、そして神学という多様で幅広い視点から考え、来場する市民のみなさんと共にこれを批判的に検討してみたい。

お問い合わせ：

西南学院大学神学部  
092-823-4246 (須藤研究室)

駐車場はございませんので、  
公共交通機関をご利用ください。

(地下鉄西新駅3番出口徒歩5分)

